

なお、子宮腫瘍については、今回子宮体癌に関して超音波断層法とCTの比較検討を行い、ポスターセッションにて発表している。

310. 婦人科腫瘍に対するN.M.R-CTの臨床応用に関する研究

(千葉大) 掛田 充克, 藤縄 和代
小堀 恒雄, 高見沢裕吉

目的: NMR (Nuclear magnetic resonance) 診断法は、産婦人科領域においても、新しい画像診断法として注目を集めている。今回、本法の婦人科腫瘍に対する有用性の検討を目的として研究を行った。

方法: 対象は、昭和59年4月から9月までに、当科において治療を行った15例である。疾患別患者数は、子宮頸癌2例、子宮内膜癌5例、絨毛性疾患3例、卵巣腫瘍5例である。

MRI (Magnetic resonance imaging) には、Picker社超電導(0.25T) NMR-CTを使用し、同時にX線CT (G.E.C.T./T. 8800)、超音波検査(東芝SAC12A)も行い、手術所見との対比を行った。

成績: 1) NMR-CTは、X線CT・超音波検査に比べ、子宮の同定が容易であった。また、coronal像、sagittal像が得られることにより、病変の立体的把握がより容易であった。2) NMR-CTでは、T₂強調画像とすることにより、子宮内膜およびその腫瘍、胞状奇胎はhigh intensityとして表現され、low intensityを示す子宮筋層との区別が容易であった。子宮内膜癌5例中3例に摘出標本で直径2cm以上の腫瘍が認められたが、術前の診断率は、超音波検査2/3、enhanced X線CT 2/3、NMR-CT 3/3であった。

独創点: 婦人科腫瘍に対して、超電導NMR-CTを用いた臨床的研究はなく、本研究が最初のものである。

質問 (杏林大) 高橋 康一

従来のX線CTでは子宮頸癌の癌組織と正常子宮頸部組織の識別ができなかったが、NMR-CTではこれが可能か、お教え下さい。

回答 (千葉大) 掛田 充克

massとしての区別は可能だが、そのmass中に炎症性変化が含まれる可能性があり、今後の検討が必要である。

質問 (金沢医大) 桑原 惣隆

我々もNMRの応用を予定しているが、欧米では妊娠にも対象にしているが、本邦では当分適応とはならないのか御教示願いたい。

回答 (千葉大) 掛田 充克

文献的には可能だが、我々は使用をひかえている。

追加 (京都府医大) 本庄 英雄

T₁、T₂減衰調節により、水、血と脂肪組織を鑑別でき、術前皮様嚢腫と陳旧性の子宮外妊娠(血腫)を鑑別し得た症例を経験している。NMR-CTは腫瘍の内容をレ線CTよりも明らかにし得る可能性があり、今後の手法の追求、改善を期待する。

311. 婦人科進行悪性腫瘍におけるRI-scintigraphyの検討

(弘前大) 西村 幸也, 片桐 清一
高野 敦, 品川 信良

目的: 婦人科進行悪性腫瘍例での原発巣の拡がりや転移の有無の診断にRI-scintigraphy(以下scinti.)を積極的に取り入れ、手術所見などの臨床所見と対比して、これらの方法の精度と有用性を明らかにしようとした。

方法: 昭和56年1月から60年2月までの約4年間に当科で治療した進行悪性腫瘍症例合計119名に対し、⁶⁷Ga-citrate腫瘍シンチ(tumor scinti.)、^{99m}Tc-MDP骨シンチ(bone scinti.)、^{99m}Tc-Sn colloid肝シンチ(liver scinti.)及び^{99m}Tc-Rhenium colloidリンパシンチ(lymph scinti.)を行い、検討した。

成績: (1) 症例を、腹腔内に径3cm以上の腫瘍のある症例(A群)と、腫瘍なし、あるいはあつても径3cm以下のごとく小さいものと考えられる症例(B群)とに分類し、それぞれのtumor scinti.での⁶⁷Ga hot uptakeの出現率を調べた。卵巣癌では、A群70%、B群24%で臨床像との一致率が高かったが、子宮癌では、A群74%、B群47%でB群でのfalse positiveが多かった。これは、術後の癒痕や炎症に⁶⁷Gaが集積した症例が多いためと考えられた。(2) bone scinti. (101例)は何らかの異常所見のあるものが42%あり、骨転移と他疾患との鑑別が重要となっていた。lymph scinti. (31例)はfalse negativeがやや多く、lymph angiographyの方がより確実であると考えられた。liver scinti. (62例)は所見を得られない事が多く、またSOL (Space Occupying lesion)の質的診断がほとんど得られないなどの欠点があり、改善を要すると思われる。

独創点: 多数の婦人科悪性腫瘍例に対して組み合わせで施行した各種RI-scinti.所見を詳細に検討した。

質問 (東京女子医大) 滝沢 憲

Bone Scinti.で、hot uptakeのみられた症例について、どのように取り扱うか、false positiveが、かなり高いと思うが、すぐにRadiationなどを開始してよい